

# ICT を活用した授業について思うこと

ICT を使った授業を最近よく見かけるようになった。どの授業を見ても、学習内容をよく理解するということもあるが、最大のメリットは、「子どもたちが楽しく学習できる」ということらしい。このことについて、いくつか疑問点をあげてみる。

- ①この「楽しさ」は少し質的におかしいのではないだろうか。この「楽しさ」は、学問をする「楽しさ」なのだろうか。「楽しく学ぶ」ではなく「学ぶ楽しさがわかる」というのが、学習する目的ではないのだろうか。
- ②授業者は、「先生」ではないのだろうか。ICT が、「先生」になったような授業が目立つのは、おかしい。ICT は、あくまで授業の補助であるはずだが、主役になっているのではないだろうか。授業内容をよりわかりやすく ICT を活用するというのが本来の目的ではないだろうか。
- ③ICT を主役にした授業をすれば、どんな先生でも同じ授業をすることができると考えてはいないだろうか。先生の個性とか、今、目の前にしている子どもたちに対応した授業は必要ないのだろうか。
- ④ICT を使えば、「先生」の仕事は、ナビゲーターだけで、教材研究は、さほど必要ないと考えていないだろうか。これが、先生の仕事の軽減につながると考えていないだろうか。教材研究とそこからの授業づくりが、先生の一番大切な仕事ではないだろうか。

そこで、ICT の活用について、調べてみた。

文部科学省は、ICT 活用について次の3つをあげている。

- 1) 学習指導の準備と評価のための教師による ICT 活用  
よりよい授業を実現するために教師が ICT を活用して授業の準備を進めたり、教師が学習評価を充実させるために ICT を活用したりすることである。
- 2) 授業での教師による ICT 活用  
教師が授業のねらいを示したり、学習課題への興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりするために、教師による指導方法の一つとして ICT を活用することである。その際の ICT 活用の目的は、情報の提示のためが最も多い。学習指導要領における教師による ICT 活用の例示の多くは、映像や音声といった情報の提示である。
- 3) 児童生徒による ICT 活用  
児童生徒が、情報を収集や選択したり、文章、図や表にまとめたり、表現したりする際に、或いは、繰り返し学習によって知識の定着や技能の習熟を図る際に、ICT を活用することによって、教科内容のより深い理解を促すことである。

ここからは、「楽しく学習する」は出てこない。「興味関心を高める」とはある。あくまでも指導方法の一つである。何だか「ICT 活用」が、違った方向に進みそうな気がする。ここで、もう一度「先生」の基本にもどりたいと考える。

「先生」のプロとして、先生の個性を生かし、今、目の前にいる子供にあった授業づくりをしよう。そして、「〇〇先生しかできない授業」をつくろう。しっかり教材研究をして、「学ぶ楽しさがわかる楽しい授業」を構築したいものである。そのために ICT を活用しよう。授業を通して、「子どもの人格を形成する」のが、教育の目的である。

「教育の」目標は、自主的に行動し、考える、しかし、社会への奉仕を人生の最高の達成と見るような個人の養成でなければなりません。(アインシュタイン)

# ICT 教育について

## ICT 教育のメリット

### 1. 今までの授業では実現できなかった事ができる。

○ICT 教育では ICT 機器を使うので、例えば、ビデオ会議機能を使って、海外の学校の生徒や教員の顔を見ながら英語でやり取りを行うことができるなど、授業内容の幅が広がる。

○そうすることが、子どもたちにとって本当にいいことなのか考える必要がある。

### 2. 児童のモチベーションが上がる。

○ICT 教育で使用する IT ツールによって画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことができ、生徒の興味・関心を高め学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業ではなく、タブレットを使っての主体的・協同的な授業が出来ることも生徒の学習に対するモチベーションを高める。

○モチベーションの高まりが、いつまで続くかが問題である。

○教員からの一方通行の授業は、もうすでに否定されている。

### 3. 生徒も教員も楽しみながら、効率的な学習ができる。

○児童にとってはタブレットを使えること自体が楽しいものである。そして生徒も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えづらいことを、画像や動画などを使って視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、楽しみながら効率的な学習を進めることができる。

○タブレットを使うことで、楽しく、効率的な学習を進めることができるのか。

### 4. 生徒が授業に積極的に参加しやすくなる。

○挙手をして発言をしたがらない児童でも PC を使った共同編集などでは積極的に参加しやすくなる。

○発言したがらない児童は、PC を使えば積極的になるとは思えない。

### 5. 教員が効率的に授業を行うことができる。

○PC やタブレットを使うことで、板書時間やプリント作成時間などを削減することができる。

○板書時間や、プリント作成時間が大幅に短縮できるとは思えない。

### 6. 教員の時間短縮が図られる。

○教員にとっては、紙ではなく電子データを扱うことになるので、情報の利活用が楽に出来るようになり、かつインターネットを使うことで情報を早く仕入れることができ、作業の時間短縮に繋がる。

○作業時間の大幅な短縮は期待できない。

### 7. 教員間での情報共有も簡単にできる。

○電子データなので、授業で使用した資料などの情報共有を教員間で簡単に行えるようになる。

○すでに行っている。

## ICT教育のデメリット

### 1. 端末購入の負担がある。

○ICT教育を導入していくにあたって、ICT機器を購入する必要がある。それが、個人購入である場合は保護者の負担になる。また故障時の修理代や、代替品の購入にも費用が発生する。

○この問題については、行政が対応している。

### 2. ICT機器の管理や故障対応で教員の負担増に繋がることもある。

○ICT機器は便利ですが、管理や故障対応も行う必要がある。また情報漏えい防止などにも気を配る必要がある。

○これも行政が対応している。

### 3. ICT機器に苦手意識を持つ教員の負担になることもある。

○ICT機器に苦手意識を持つ教員もいる。そのような教員にとっては機器の操作面などで負担となることが予測される。

○研修等でクリアしようとしている。

### 4. PCの機種や性能によって授業展開が遅くなる可能性がある。

○PCの機種や性能によって授業展開が遅くなる可能性がある。例えば、WindowsPCの場合、起動やシャットダウンに時間がかかり授業自体に支障が出る場合がある。

○PC機器は、統一し、時間もかからないよう考えられている。

### 5. ICT機器によって特性があり、作業が限定されることもある。

○ICT機器によって特性があり、作業が限定されることがある。

○ソフトによって、できないことがある。

### 6. ICT機器を「使うこと」に気を取られると授業効率が悪くなる。

○教員が、ICT機器はあくまでツールであることを理解しておらず、ICT機器を使うことが目的になってしまうと授業効率が悪くなる。

○あくまでもICT機器は、ツールであることを理解すべきである。

### 7. 生徒の想像力が低下する可能性がある。

○ICT機器を使うことで、生徒はインターネットを使って何でもすぐに調べてしまうことができるようになるので、生徒の想像力の低下に繋がる。

**以上のようなことを考えると、児童1人にPCを与え、教育環境を整えることは、児童にとっても教師にとっても本当にいいことなのだろうかと考えてしまう。**

**それより、20人学級にした方がいいと考える。20人にすれば、個別対応もしやすいし、教師の仕事量も軽減される。そしてきめ細やかな指導ができると思う。**